子どもたちが行きたくなる図書館づくりが始まっています
変わる、学校図書館

まちづくりの新たな胎動を
いち早くキャッチしてご紹介する
シリーズ「まちづくり最前線」。
第9回は
〈学校図書館〉について。

リポーター
市民図書館
司書　吉岡 律子

学校図書館は、子どもたちの最も身近な図書館で、学習や成長過程に重要な役割を果たす場所です。教育委員会では今、子どもたちにより一層利用してもらうためソフトとハードの両面から整備を進めていて、今回はその最前線の取り組みをご紹介します。

こんにちは、市民図書館の吉岡です。さて、皆さんは「どうして学校図書館の話を市民図書館の人がするの?」と思いませんか。

たしかに学校図書館というと、これまでは学校がそれぞれ独自に管理・運営するものでした。それが変わったのは平成21年度から。教育委員会で「学校図書館等整備方針」を定め、市民図書館も学校図書館の運営に深く携わるようになったのです。

その目的は、学校図書館の運営を支援することで、子どもたちの読書環境をより豊かにすることです。今回は、学校図書館支援活動の中から次の4つをご紹介します。

① **司書による運営支援**
② **ネットワークの構築**
③ **図書館施設のリニューアル**
④ **蔵書の整理・充実**

現在、双葉・南線・緑苑台小学校には市民図書館の司書を配置し、運営しています。花川小学校では図書館の改修、八幡小学校には市民図書館の八幡分館の職員を週2回派遣し、図書館運営を支援しています。なお学校への司書配置は、今後も順次行っていく予定です(規模の小さな学校には、図書館から司書の派遣などを予定しています)。

平成24年2月に学校図書館をリニューアルした緑苑台小学校を訪ねると、「愛先生(学校司書)が来てくれて、本が探しやすくなった」「図書館が明るくなったから、前より来るようになった」と、子どもたちの評判も上々でした。

魅力ある図書館には、必ず人が集まることを私たちは知っています。市内の学校図書館をそんな空間にしていくことが、これから私たち市民図書館スタッフの使命です!

地域開放型の学校図書館「あいかぜとしょかん」

厚田小学校校長　高橋 たい子 氏

平成24年12月10日(月)、市内初の地域開放型学校図書館「あいかぜとしょかん」が厚田小学校にオープンしました。

本校は、作家・子母澤寛が卒業した学校であり、35年ほど前には当時の教職員が「やちだも文庫」を開設するなど、読書活動が盛んです。「あつた童話をよむ会」の皆さんによる読み聞かせもその一つで、今も児童たちが目を輝かせる場になっています。

「あいかぜとしょかん」は、かつての武道場を改築したものです。建物としては少し小さいかもしれません。でも、ここは地元の皆さんが汗を流した思い出の場所です。故横綱吉葉山を輩出した厚田らしく、武道もさかんだったのでしょう。

そんな先人たちの厚田への思い、志を受け継ぎながら「あいかぜとしょかん」が、これからは子どもたちの夢を育む場、地域の文化の拠点・憩いの場となるよう、地域の皆さんと一緒に創り上げていければと思います。

読書はもちろん、子どもたちにもぜひ声をかけてください!

緑苑台小学校の学校図書館は校舎の改築に伴い、ランチルームを改修したもの。きれいで気持ちの良い空間に、子どもたちの利用も着実に増えています。
写真は同校の図書委員の皆さんと学校司書の小野愛さん。

◎ココが変わる！　学校図書館4つのポイント

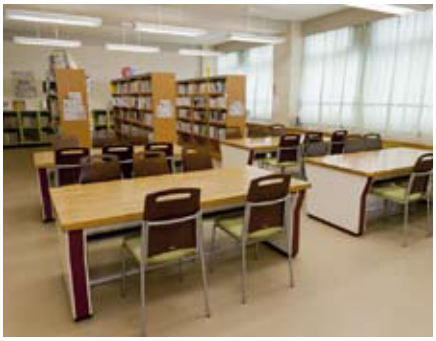
① 司書による運営支援

司書が子どもたちと特集コーナーなどを企画。また、書架の見出しを、市民図書館と同じ「十進分類法」に統一し、子どもたちが公共図書館でも本が探せるよう配慮しています。写真は八幡小。

② ネットワークの構築

司書が教育現場にいることで、先生たちの資料探しをサポートすることもできます。市民図書館とオンライン化することで資料提供が豊富になり、授業を後方から支援します。

③ 図書館施設のリニューアル



花川小では、二階に図書館を移転し、新しい書架も置かれ、明るくなりました。そして、広くなったことで1学級全員が利用できるスペースとなり、利用者も増えました。

④ 蔵書の整理・充実

破れたり、変色した本は、あまり手に取りたくないですよね？　そして古い本では調べ物ができません。そこで、古い本を整理し、きれいな本を書架に並べることで子どもたちの読書意欲を促す一方、市では追加予算を組み、学校図書館の蔵書の充実を図ります。